



尼崎市立武庫中学校

学 校 だ よ り 平成24年12月号

校訓 友愛 正義 自主 創造 健康

負けでたまっか!!

命を大切に、今日一日を精一杯生きよう

校 長 大 石 泰 樹

東日本大震災 気仙沼市からの報告

2012年11月21日(水) 命の大切さを学び、被災地支援について考える特別授業を行いました。東日本大震災後、武庫中学校では生徒会が中心になり被害を受けた気仙沼市の復興を支援し、気仙沼市立鹿折(ししおり)中学校との交流を行ってきました。そして、この度、気仙沼市立鹿折小学校の前校長である小野寺徳茂氏先生をお招きして、「震災を通して命の大切さを学ぶ～私たちにできること」という講演を聞きました。勤めていた小学校が津波で大きな被害を受けた様子やご自宅も丸ごと流されたこと、また、困難に負けず復興しようと立ち向かっている現在の鹿折地区の姿をたくさんの写真をもとに話していただきました。特に、この震災でなくなった鹿折小学校の児童や教え子の親に対する先生の痛恨の思いを聞いて生徒たちは涙しました。私たちができる支援についての質問では「大切なことは、被災にあった私たちのことを忘れないで下さい。」「継続して関わって下さい。」と言われました。最後に、小野寺

先生から「自分や他の人の命も大切にして、有意義な中学校生活を送ること。これから長い人生に夢を持って素敵に生きること。そして、被災した人たちのことを忘れずにいてください。」とのお言葉をいただきました。生徒の皆さんは、これからも、この特別授業で



学んだことを大切にしながら、被災地のことを忘れないように、生徒会を中心に今後の支援を考えていきましょう。命を大切に、今日一日を精一杯生きよう。最後に一言、小野寺先生が子どもたちに言い続けてこられたことを載せておきます。

1 自分の命も他人の命も大切に

—もっともっと生きたかった、もっともっといろんなことをしたかった犠牲になった友だちの分まで—

2 たくさんの支援に感謝するとともにいつかは世のため人のために役立つ人に

被災地福島からの報告

11月8日人権講演会で原発被害のあった福島の子どもたちを支援しているNPO法人篠山国際理解センター足立眞理子さん、どろんこキャラバンスタッフ森島卓也さん、福島から移住してきた廣岡和也さんを招いてお話を聞きました。放射能のため外で遊べない福島の子どもたちを丹波市のキャンプ場に招き遊ばせたんですが、運動不足だったからか、すぐに筋肉痛を起こしてしまった話を聞いて考えさせられました。福島から移住してきた方は、福島が抱える、地震、津波、原発被害、風評被害、災害の風化など6重苦について語っていただきました。



—希望の言葉—

桜は桜、梅は梅と

そのままの姿で最高に美しい
人間も同じで、誰一人として
使命のない人はいない
希望さえ失わなければ
その人でしか、もてない
最高の輝きを放ちながら
自分らしい人生を送ることができる



西武庫公園前の清掃ボランティア